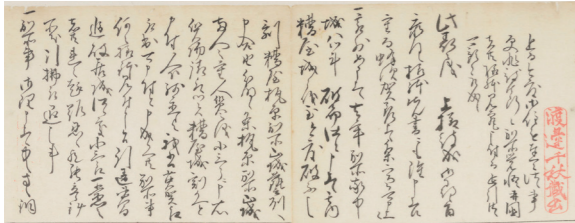


通説を揺るがす新史料!

長治が秀吉から離れた理由は、従来、将軍 足利義昭を擁する毛利氏との関係や秀吉への不信感など、さまざまな事情が重なったためと考えられていました。



『羽柴家文書』(東京大学史料編纂所蔵)

しかし、近年新たに発見された『羽柴家文書』によると、秀吉が別所家中の8つの城の破却をめくり対立したことが大きな要因だとみられるなど、新たな見方が生まれています。



▲別所長治画像(法界寺所蔵)
23歳という若さで城を明け渡す決断を下した、若き武将。



▲別所長治が愛用したと伝わる金天目茶碗(雲龍寺所蔵)



▲秀吉制札(市指定文化財)
〈三木市有宝蔵文書〉

三木城跡には、長治が最期に詠んだとされる辞世の歌碑が立っています。その遺志は、秀吉に感銘を与え、城兵は助けられました。また、秀吉は、土地の税金免除などを認める制札を出し、三木市発展の礎となりました。

「今はただうらみもあらじ諸人の
いのちにかはる我身とおもへば」



▲長治公辞世の歌碑

秀吉方の包囲はさらに強化され、三木城内に蓄えた食料は尽き、やがて家畜に与える餌までも食べたと伝えられています。餓死者が出るほどの過酷な戦いは、1年10カ月続き「三木の干し殺し」とも呼ばれています。

城内に攻め込まれ、後がなくなった長治は決断を下します。それは、自らの命と引き換えに、城兵の助命を願うものでした。長治は一族とともに自害して開城しました。

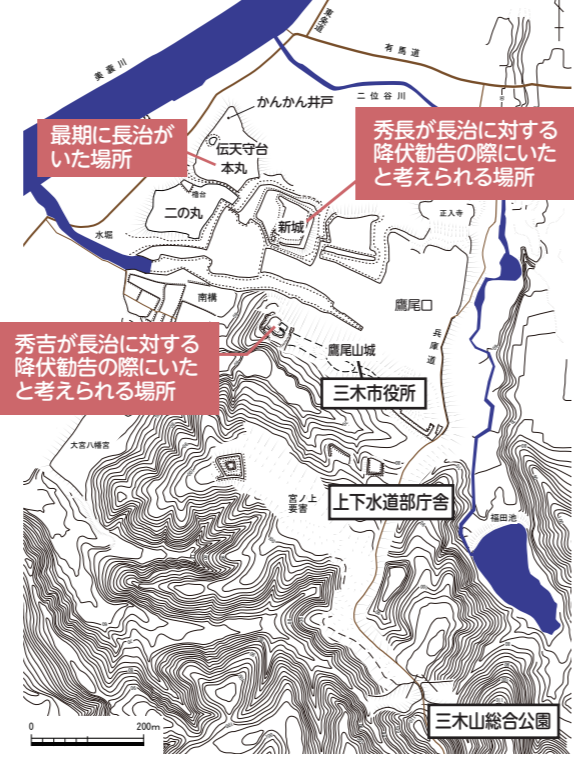
別所長治の決断

天正6(1578)年10月、別所方は三木城から秀吉の本陣である平井山を攻めめました。しかし、平井山の手前待ち構えていた秀長の軍勢により、長治の弟 治定が討ち死にするなど、別所方の敗北となりました。

別所長治公の命日にあたる1月17日には「別所公祥月命日法要」が雲龍寺で営まれています。土壁に塗り込まれたわらまでを食べて飢えをしのいだと伝えられている当時の惨状を偲び、法要後には、わらに見立てたうどんを食べる「うどん会」が受け継がれています。また、長治公を偲び、後世に語り継ぐために、毎年5月5日には「三木城跡(上の丸公園)で「別所公春まつり」を開催しています。

三木城内に陣取った秀吉と秀長

長治が決断を下す頃には、秀吉・秀長らが三木城内に攻め入っていました。後戻りのできない、切迫した状況でした。



三木城跡 縄張り復元図(最終段階) (金松誠作図)

三木城を包囲する付城配置図



【出典】金松誠『秀吉の播磨攻めと城郭』,戎光祥出版,2021年,8ページ(一部加筆)

大河ドラマ「豊臣兄弟!」放送にあわせて 別所一族と豊臣秀吉・秀長 いま振り返る「三木合戦」の歴史

現在放送中の大河ドラマ「豊臣兄弟!」。その舞台の一つである三木では、かつて三木城主 別所長治と豊臣秀吉・秀長兄弟が対決した「三木合戦」が繰り広げられました。

秀吉・秀長、三木へ

天正5(1577)年、織田信長は、豊臣秀吉に中国攻めへの足掛かりとして播磨攻めを命じました。播磨平定をめざす中で最大の障壁であった三木城の攻略を任されたのが秀吉と秀長の兄弟でした。

逃げ場なし… 敵に囲まれた三木城

秀吉方は三木城攻略のために平井山に本陣を置き、周囲に数多くの付



▲平井山ノ上付城跡(秀吉本陣跡)
美囊川と志染川の間の上所に位置し、主郭(本丸)から南西に三木城跡を望むことができる。秀吉が堺の茶人 津田宗及を招き、初めて茶会を開いた場所。

城を築きました。武力だけで攻め落とすのではなく、城を囲み、外から入る食料を断つことで、戦わずして相手を追い詰める「兵糧攻め」が行われたのです。付城は三木城を囲むようにして東西約6km、南北約5kmの範囲に存在していたとみられ、三木市が遺跡として明確に把握しているものは24城あります。

問・(市)観光振興課
(市)文化・スポーツ課
みき歴史資料館 ☎82・5060